

## 豊田市再生可能エネルギーの導入の推進に関する条例（案）パブリックコメント結果

〔募集期間：平成25年12月15日～平成26年1月15日〕

【9通、16件】（提出方法 ホームページ：3通、FAX：3通、Eメール：2通、郵送：1通）

No.	分類	意見の概要	豊田市議会の考え方
1	第1条 (目的)	最近の風潮である、「脱原発」が無い。再生可能エネルギーの導入促進は、裏返せば「原発エネルギーへの依存度を、限りなくゼロに」という課題（願望）ではないか。	原子力を含めたエネルギーについては、現在、国において検討している新たなエネルギー基本計画の中で総合的に議論されています。豊田市では、再生可能エネルギーの導入を推進することにより、エネルギーの多様性や地産地消、地域の活性化を促進します。
2		2行目にある表現「市、事業者及び市民の共通の責務を～」がとても大切なポイントと考える。この認識、姿勢こそが、今後の推進やその成果を左右する。	ご指摘のとおり、3者の認識、姿勢また連携が大切であると考えています。
3	第2条 (定義)	(1) 再生可能エネルギーに・・・等ではなく、太陽熱も具体名で示してほしい。既存の温水器が非再生エネルギーを使っていることを考えると、太陽熱利用による効果は非常に大きいと考える。	太陽熱も有効な再生可能エネルギーであると認識しており、太陽光の中には太陽光によって地上に届けられる太陽熱も含んでいます。
4	第3条 (基本原則)	「・・・地域の活性化に資するとともに、かけがえのない環境を健全で恵み豊かなものとして将来の市民に引き継ぐよう積極的に・・・」と追加してほしい。環境基本条例の理念をここに明記しておく必要があると考える。	この条例は、環境基本条例の基本理念に基づき制定するものとしており、ご指摘の内容は環境基本条例に既に記載されています。また、本条例の目的に掲げた「環境への負荷の少ない持続的発展が可能な地域社会の構築」には将来の市民に引き継ぐよう社会を発展させていくという思いを含め表記しています。

No.	分類	意見の概要	豊田市議会の考え方
5	第4条 (共通の責務)	「経済性に配慮しつつ」とあるが、原発ゼロ化は、一時的にせよ割高な代替エネルギー化を余儀なくさせるため、現政権も「配慮しつつ」と苦しい説明で、直接対決を避けている。今回の豊田市の政策でも、この「経済性に配慮しつつ」の件(くだり)を、どの程度まで突っ込んだ表現とするか、時間をかけてでも議論を尽くされることを望みたい。	再生可能エネルギーの導入には費用のかかるものもありますが、費用対効果を考え、無理のない範囲で行っていただくことが継続的な推進につながっていくと考えます。
6	第5条 (施策の基本方針)	「(4) 低炭素社会を実現するために、再生可能エネルギーを事業活動や市民の日常生活で安定して利用できる仕組み構築に務める。」を追加してほしい。豊田市では作り出した再生可能エネルギーを電力事業者に提供することとしているが、不安定な再生可能エネルギーを生み出し、利用するには、自らが積極的に利用する仕組みがなければ、導入率が他人任せになり高めることは不可能になると考える。	導入を推進する条例のため、利用の施策についての記載はありませんが、ご意見のように、利用しやすい環境づくりも必要と認識しています。豊田市では、とよたエコフルタウンにおいてスマートハウスなど家庭内でのエネルギー利用の最適化やエネルギーの地産地消等の提案を行い、市民生活への普及に努めています。
7		条例にのっとり計画を定期的に策定して実行する、担保性を確保すべきである。	豊田市では、再生可能エネルギー導入指針を策定するとともに、環境モデル都市アクションプランを策定し、具体的な施策を進めており、本条例で施策の体系づけを行うものです。
8	第5条 (施策の基本方針)	基本方針にある3つの分野のうち、やはり分かりにくいのは2番目の「市民、地域」の役割で、どんなケースで何をどの程度までやるべきか、具体例などによる説得力を望みたい。市民は、自分たちに何ができるのかが分かれば、結構、行動力が期待できるように思う。	貴重なご意見として参考にさせていただき、豊田市が策定した「再生可能エネルギー導入指針」や「環境モデル都市アクションプラン」に掲載された事業が確実に実施されるよう、議会の機能を果たしていきます。
9		公共施設に太陽光発電を取りつける事に大賛成。この中部地区は日照にめぐまれて、とてもよい場所である。個人では費用がかかり過ぎるが、学校や幼稚園等、広い面積を持つ公共の建物を使って、ぜひ太陽を有効利用してほしい。	

No.	分類	意見の概要	豊田市議会の考え方
10	第5条 (施策 の基本 方針)	<p>広大な農村部へのアプローチを重点項目として挙げるべき。事業者や地域への展開を挙げているが、在来型から脱皮して農村部への展開を計るべきと考える。広大な山林を有しており、過疎問題やT P Pのこともあり、農村部の改革の一端としてエネルギー問題も導入すべきと考える。他県等では山林をかかえている所で、太陽光発電の森づくりや森林整備による間伐材等によるバイオマス発電などを取り入れている所がある。これらにより農村部の産業化も含めて活性化につなげてはどうか。これらを進めるには、農村部は何かと遅れがちなので、システムづくりから入ることになるが、企業や専門者を巻き込んだプロジェクトチームによる推進があると思う。</p>	<p>貴重なご意見として参考にさせていただき、豊田市が策定した「再生可能エネルギー導入指針」や「環境モデル都市アクションプラン」に掲載された事業が確実に実施されるよう、議会の機能を果たしていきます。</p>
11		<p>豊田市の森の占める割合は非常に高いので、間伐材等のバイオマス発電への取組も願います。</p>	
12		<p>優先順位として、節電・省エネ、省エネ機器の導入（買い替え）の次に再生可能エネルギーの導入という順序、エネルギー利用の総量を減らすことが大切と思う。また、安価でエネルギー効率の良い太陽熱利用も積極的に普及をしてほしい。</p>	
13		<p>市民の学習の機会の充実、誰でも導入できるような小規模な機器の紹介、市民の活動グループの育成や企業間の連携促進を促すような事業を期待する。</p>	

No.	分類	意見の概要	豊田市議会の考え方
14	その他	「理念条例から実行条例へ」と、大阪市の取組を評価されているので、本市の今後の取組にも期待したい。湖南市のユニークな事例などにも興味を持ったようだが、「議会提案の具体性」や「行政側の展開の踏み込み」が課題であると吐露しているが、両者の連携プレイに今から不安を感じているようで、市民としてはその姿勢こそが主体性や牽引力の弱さと映りかねない。気合いの入った迫力や熱気を感じさせてほしい。	再生可能エネルギーの導入には様々な課題があり、また、技術も進歩しています。事業の実施等にあたり議会の機能を果たすため、貴重なご意見として参考にさせていただきます。
15		小水力発電を行っているが、水力発電は水の流れがあれば設置でき、地産地消エネルギーとして大変有効と考える。ネックになっているのは水利権で、特に県管轄河川における水利権問題を解決する必要があると考える。	
16		水から新燃料「オオマサガス」が、出来るらしい。	